



全教北九州

「新聞 全教北九州」

全教北九州市教職員組合

発行責任者 中川喜久子

2019.4月号

ホームページ: 検索 **全教北九州**

この新聞はすべての教職員に配布しています。

新規採用の教職員のみならず、ご就職、おめでとうございませう。

私たち 全教北九州市教職員組合は、皆さんのご就職を心より歓迎いたします。皆さんは、夢や希望、理想をもたれて「学校」という場所での仕事に就かれたことと思います。「子どもたちを育てるという誇り」「自分の能力を發揮できるという充実感」など、これらは教育現場で仕事をする者の「生きがい」「働きたい」とも言えます。

私たち全教北九州は、教職員としての生きがいや働きたいが發揮でき、健康で安心して働ける環境、勤務・労働条件の実現を目指して運動を続けています。また、組合の運動の一環として教職員とその家族の生活とのち・健康を守るため「全教共済」も取り扱っています。

全教北九州は、教職員の仲間と明日を語り、連帯しながらより良い教育や働く環境づくりをすすめる教職員組合です。皆さんもこの仲間の輪に入っただけなら幸いです。

研究の自由が保障され、自主性や創造性が發揮できるそんな教育現場にしませんか！

今、問いたい

「教師の仕事とはなにか」を。

今、教師の「働き方改革」が叫ばれています。長時間過密労働で、自由になる時間と物事を考えるゆとりの時間が奪われ、多忙な働き方により健康を害する教職員も多数います。

教職員は、その専門職性を生かし、子どもたちに質の高い教育を実践したり、毎日子どもたちの笑顔を楽しみにふれ合いを大切にしたりするなど、多忙のなかでも子どもたちの成長を願って日々頑張っています。

しかし、そのような願いと裏腹に「何のためかよくわからない」「意味のない」仕事で多忙になっている現実があり、そこに息苦しさや矛盾を感じ教育実践を行っているのも現実です。

本当に子どものためなのか矛盾を感じながらやらされている学力テストに向けた様々な取組。学力テスト体制のなか、「教育」本来の目的が見失われることへの疑問や危機感、閉塞感など、北九州の教職員の仕事へのモチベーションの向上のためにどうしたらいいのか問題になっています。

点数競争の過熱による教師の疲弊を招いたアメリカの教育

弊を招いたアメリカの教育

アメリカでは「落ちこぼれ防止法」制定以降、公教育に市場原理が取り入れられ、学力標準テストで学校や教師を競わせることで、点数を軸とした教育の徹底管理が進められています。学校では、テスト対策に重きが置かれ、

教師は成績を伸ばすためのPDCAサイクルを求め資料づくりに追われ、教材研究をする余裕もなくなりまして。また、学習スタンダードを駆使した授業のマニユアル化や「ゼロトレランス」を取り入れた生徒指導がすすみました。教育現場からは創造性や研究の自由が失われ、効率の名のもとにカリキュラムも教材も指導方法さえも教育委員会が決めたパッケージで教師に配布されるようになり、教師のオリジナリティは消え、生徒の評価は数値化されるようになりました。

教職員も子どもも生き生きと学び成長できる「学校」にするために

これはアメリカだけの話では済まされなくなりました。今教育現場では、

「新自由主義」教育の名の下、アメリカのような教育改革がすすんでいます。それは4月にある「全国学力学習状況調査」とその成績開示を利用した競争主義、数値化による教育の管理が年を追うごとに厳しくなっていることと重なりま

す。北九州の学校では、点数をあげるために、学力テストの過去問を解かせたり、北九州独自の学力テストや学力テスト対策のテストプリントを押しついたりするなど、まさに点数を軸とした教育の徹底管理が始まっています。また学習のスタンダード化や点数向上を図るPDCAサイクルの活用などで自主性、創造性が奪われるなか、「仕事」へのプライドやモチベーションを持続することに苦勞し、疲弊する教師も増えています。

また、「働き方」改革の名の下、児童生徒の自主的・主体的な活動の機会や場所も簡略化させられたり、廃止させられたりしており、貴重な学校文化や風土が切り捨てられていることも心配です。

全教北九州市教職員組合は、教職員が仕事へのプライドとモチベーションをもって働き続けることができる「学校」、教職員も子どもも生き生きと学び成長できる「学校」の在り方を探りながら、よりよい教育、働く環境・条件整備を目指して運動を進めていきます。

教職員の要求が一步前進

早急にすべての特別教室にエアコンを!!

❖ いよいよ夏休みが短縮され、二学期は8月26日から授業が始まります。全教北九州は、これまで教育環境を整えてからの夏休み短縮を要求し、早急に特別教室にもエアコンを設置するようになってきました。

❖ 私たち教職員の声が届き、特別教室へのエアコン設置の予算が認められました。設置校は10校程度と私たちの要求とは大きな開きがありますが、しかし大きな一歩だと思います。次は、すべての学校の特別教室に早くエアコンが設置されるように職場でも声をあげましょう。

※国の「教室等の環境に係る学校環境衛生基準」改正後、教室環境の基準は、それまでの30度以下から「17度以上、28度以下」に変更されました。

全教北九州版 「勤務時間内で授業準備がしたい」チラシ完成!

給特法で教員の超過勤務は認められていません。しかし、おかしなことに、ないはずの超過勤務が「ボランティア」ということで現実には行われています。全教北九州は、この間も教育委員会に働く環境を改善するように申し入れてきました。そのような声を受け、教育委員会も教員の働き方を見直す取組を進めています。

教員の数を増やし、教員一人

の持ち時間数に上限設定を!

給特法を改正して、教員にも残業手当という声が今全国の教員に広がっています。それが教員の異常な超過勤務の歯止めにもなるからです。

一方で教職員を増やし、教員一人当たりの授業の持ち時間数に上限を設ける必要があります。全教北九州は市教委にたいし「小学校20時間・中学校18時間」（道徳・学活・総合等を含む）の上限設定を設けるよう要求しています。

今回、持ち時間数上限設定を多くの教職員に知ってもらうため、チラシを複製し配布しました。今後は「部活版」や「ブランク給特法版」なども作成予定です。

長時間過密労働を

一緒に改善しましょう!

4月の職員会では勤務時間（在校時間）短縮・削減の提案が各学校でなされるはずですが、「何かを加えるなら、何かを削る」のが時短の原則ですが、これがなされてこなかったのが北九州の教育行政です。今年度の立ち上がりの職員会議では是非長時間勤務の削減の意見を声に出して言ってください。そして職員の合意としてみなさんが働く職場がもっと働きやすくなるようにしてください。

長い間、教員の授業負担は「1日4コマ」が原則だった。

「1教員あたりの標準指導時数は、一週4時限をもって標準とした。」これは1958年に教員定数をはじめて法律で定めた際の文部省の見解です。「したがって、1日平均4時限となるが、これは1日の勤務時間8時間のうち、4時間を正規の教科指導にあて、残り4時間は教科外指導のほか、指導のための準備整理、その他校務一般に充てる考え方である。」とも述べています。この見解は、最近も国会で質問され、文科省も変っていないことを認めています。持ち時間の上限設定実現、堂々と国や市教委に申し入れを行っていきます。

教職員 権利ハンドブック

「あなたをマモロン」

を有効に活用してください。

全教北九州は毎年教職員のための権利ハンドブックを配布しています。

市費負担教職員への変更に伴い、教職員の給与・手当、休暇制度など一部変更になっています。誰もが安心して、必要な時に私たちに保障された権利や休暇が使えるようにまとめました。活用してください。

採用試験対策講座「鷹の爪」開校のお知らせ!

～今、始める。ここから始める。採用試験対策講座!～

今年度もやります。教員試験対策講座。全教北九州は、北九州の教員を目指す皆さんに教員採用試験対策講座を行っています。

第1回目は、小倉北区黄金にある「ポラリス北九州」事務所で3月9日（土曜日）に行いました。一回目は、採用試験の勉強の仕方や昨年度の採用試験のふり返り等を行いました。終了後には、ランチしながら、学校や仕事のことなどを交流する会も。二回目以降、年間の予定もふくめチラシなどでお知らせします。

来年度の採用試験合格目指して頑張りましょう。全教北九州も応援します。詳しくは下記に問い合わせをお願いします。

問い合わせ 280-4776 (080-4271-6815) 中川まで

勤務時間内で

授業準備がしたい



※「ブランクジャック」よろしく! 佐藤尚峰

全教北九州と全日本教職員組合（全教）は、教員1人の持ち授業時間数に上限を設定し、子どもたちの教育に必要な授業準備や研修の時間を確保することを提案しています。また授業準備にかかる時間を勤務時間内に保障することを北九州市教育委員会と文科省に求めています。

小学校の上限	中学校の上限	高校の上限
20時間	18時間	15時間

全教北九州市教職員組合（全教北九州）
〒802-0071 北九州市小倉北区黄金町一丁目4番9-208号
TEL: 093-280-4776 FAX: 093-280-7848
E-mail: kitakyu010@educas.jp